

1 研究主題

持続可能な社会の形成を目指し、生活者として主体的に実践する子の育成
～SDGsを身近なものに～

2 はじめに

家庭科では、児童に基礎的な知識・技能を習得させた上で、SDGsを意識し、家庭生活をより良くしようとする実践力を育むことを目指している。そこで、各校で行った授業の様子や、食育に関する様々な取組についての報告を持ち寄って情報共有を行ったり、実際にミシンを使った小物づくりの実習を行ったりすることを通して、研鑽を深めた。

3 研究経過

研究テーマに沿って、各部員が勤務校において実践・研究を進めた。

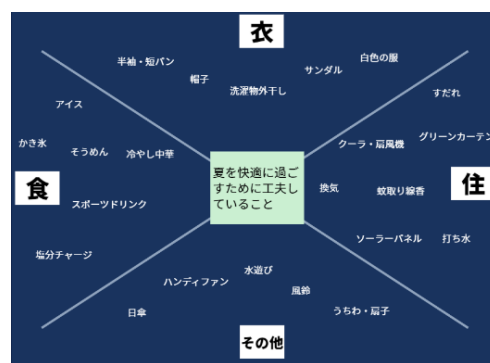
4 研究の概要

6年生「夏をすずしくさわやかに」の実践

(1) 実際の授業の流れ

ア 夏を快適に過ごすための工夫を見つける

夏を快適に過ごすために自分が実践している工夫や、見聞きして知っている工夫について、「衣・食・住・その他」の視点から考えた。個人・グループでロイロノートのシンキングツールを使って記入し、全体で共有した。全体で共有した際は、スクリーンいっぱいに見え、意見が出されて、児童は夏の過ごし方について興味・関心をもっていることが分かった。



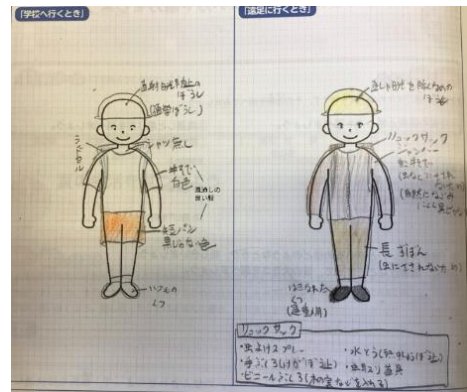
イ 夏の住まい方について考える

気温、湿度、風通し、騒音について調べ、健康・快適の視点で、生活の問題を解決するための最適な方法を考えた。すだれや打ち水など、エアコンを使う以外の方法ですずしさを感じられる住まい方など、環境にも配慮した意見が出された。

ウ 夏の快適な着方について考える

夏を快適に過ごす着方について、衣服の働きや着方から考えた。「学校へ行く

とき」と「遠足に行くとき」の2つの場面を提示し、服装を絵と言葉で表現した。快適さを求めてどちらの場面も半袖半ズボンを着るという児童がいる中で、ただすずしさを重視した服装が良いわけではなく、衣服には保健衛生上の働きと生活活動上の働きがあることを知り、活動場面にあった服装をすることが大事だということに気付くことができた児童が多くいた。



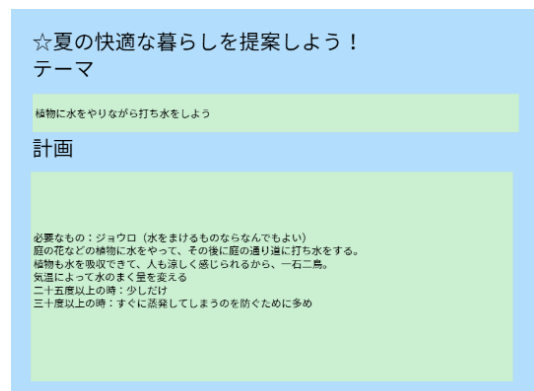
エ 衣服の手入れの仕方を知り、手洗い洗濯をする

衣服の手入れと片付けについて学習した後、洗濯も手入れの一つであることを伝え、手洗い洗濯を实践した。洗濯物に対して必要な水や洗剤の適切な量に驚く児童がいた。また、「汚れを落とすために揉み洗いやつまみ洗いをすることで、細かい汚れを落とすことができるので汚れに合わせて効果的な洗い方を今後実践していきたい」といった振り返りが寄せられた。



オ 夏の快適な暮らしを計画する

これまでに学習したことを生かして、夏を快適に過ごすために「衣・食・住」の視点から一つ選んで計画を立て、夏休み中に各家庭で実践した。食分野を考える児童が多かったが、打ち水の実験をした児童や、音からすずしさを感じられるよう風鈴を作った児童もあり、環境に配慮した取組を行おうとする意識の高まりが感じられた。



(2) 成果と課題

今回の実践では、ただ快適さを求めるだけでなく、環境を意識した発言や記述が多く見られた。これからも、あらゆる生活の場面で、持続可能な社会をつくることにつながる工夫を考え、実践していくことができるよう、継続して指導していきたい。

5 今後の課題

今回の単元に限らず、生活の中にSDGsにつながるものがたくさんあることに気付いた児童が多くいた。今後も授業の実践について交流を図りながら、家庭科の授業を通して児童が持続可能な社会づくりへの第一歩を踏み出せるよう、研究を重ねていきたい。